

令和3年度

# 長崎県学力調査

## 中学校第2学年 国語

### 注意

- 1 先生の合図があるまで、冊子を開かないでください。
- 2 問題は、1ページから13ページまであります。
- 3 解答は、すべて解答用紙に記入してください。
- 4 解答は指示された解答欄らんに記入してください。解答欄からはみ出さないように書いてください。
- 5 印刷がはっきりしなくて読めない場合は、静かに手をあげてください。ただし、問題の内容に関する質問には答えられません。
- 6 解答時間は45分間です。
- 7 解答用紙には、「組」、「番号」、「氏名」を書く所があります。まちがいのないように書いてください。
- 8 解答用紙の「補助票」には何も記入しないでください。

1

次は、中学生の姉と妹の【会話】です。この【会話】の後、妹は【スピーチ原稿】を作成し、【友人からのアドバイス】を加えて、完成させることにしました。あとの問いに答えなさい。

【会話】

妹 おはよう。何してるの。

姉 検温だよ。休みの日も検温して、健康観察表に記録しておかなくちゃいけないの。

妹 そっかあ。でも、どうしてそんな測り方をしているの。

姉 えっ、もしかして知らないの。これが正しい検温の仕方なんだよ。腕を体の横につけて、ひじを曲げて、手のひらを上に向けてとわきがしまるでしよう。それで、さらに、体温計をはさんだ方のひじをもう一方の手で軽くおさえるんだ。

妹 知らなかった。なるほどね。確かに、単にわきにはさむよりも、わきがしまってしっかり測れている感じがするね。

姉 それから、体温計の角度も決まってるんだよ。

妹 へえ。それも知らないなあ。

姉 私、新聞で読んだのだけど、体温計を製造する会社が二〇〇八年に調査したときは、正しい検温の仕方知らない人が、約七割もいたそうだよ。たぶん、今だって知らない人が多いんじゃないかな。

妹 なるほど。それで、その角度って何度なの。

姉 まず、体温計をわきのくぼみに、下から上に向けて斜めに差し込んでみて。その差し込んだ角度が三十度になると良いそうだよ。

妹 今度、学校で二分間スピーチをするんだけど、テーマを「正しい検温の仕方」にしようかな。検温は感染症防止対策に必要だし、そんなに知らない人が多いなら、みんなに知ってもらわなきゃいけないよね。

姉 それなら、「平熱」についての話も一緒にしたらどうかな。さっき話した新聞には「体温は早朝が最も低く、夕方が最も高くなる。起床時、昼食前、夕方、就寝前のそれぞれのときの平熱を知っておく必要がある。また、食後や入浴・運動後、外出後などには体温が変化するので、検温には適さない。」って書いてあるよ。

妹 ありがとう。がんばるよ。

題名「正しい検温の仕方」

みなさん、A 正しい検温の仕方をこれから説明します。  
実は、体温計を製造する会社が二〇〇八年に調査したときは、B 正しい検温の仕方を知らない人が、約七割もいたそうです。そこで、今回は正しい検温の仕方について話をします。まず、この【図】を見てください。



検温する際のポイント

- ( ) 1 ( )
  - ( ) 2 ( )
- 体温計をはさんだ方のひじをもつ一方の手で軽くおさえぬいこと

分かりましたか。ぜひ、正しい検温の仕方では体温を測ってください。  
ところで、みなさんは、自分の平熱を知っていますか。

実は、体温は一日のうちでも変化しています。体温は、早朝がいちばん低いのですが、いちばん高くなるのはいつだと思いませんか。  
いちばん高くなるのは、夕方なのだそうです。C だから、検温をして、平熱よりも高いかどうかを知るためには、起床時、昼食前、夕方、就寝前のそれぞれのときの平熱を知っておく必要があります。また、食後や入浴・運動後、外出後等には体温が変化するので、検温には適しません。

一 妹は【スピーチ原稿】をもとに、学校で友人にスピーチを聞いてもらい、アドバイスをもらいました。次はその【友人からのアドバイス】です。これを読んであとの問いに答えなさい。

【友人からのアドバイス】

ア 【スピーチ原稿】——線部Aは、「正しい検温の仕方を知っていますか」のように、問いかけの形にしてはどうか。  
イ 【スピーチ原稿】——線部Bは、正しい検温の仕方を知っている人が少ないことの方を強調してはどうか。  
ウ スピーチするときには、間の取り方を工夫してはどうか。

(1) 友人が、【友人からのアドバイス】Aのようなアドバイスをした理由として最も適切なものを、次の1から4までの中から一つ選びなさい。

- 1 正しい検温の仕方を知っている人の人数を知る必要があるから。
- 2 問いかけで始めることで聞き手をひきつけることができるから。
- 3 どんなスピーチも問いかけの形で始めるのが正しいことだから。
- 4 正しい検温の仕方を知らない人に反省を促すことができるから。

(2) 【友人からのアドバイス】イにしたがって、——線部Bを書き直しなさい。

(3) 妹は【友人からのアドバイス】ウにしたがって、間を取るところを考えました。間を取る目的と、取るところとして適切でないものを、次の1から4までの中から一つ選びなさい。

- 1 聞き手が考える時間をとるため、問いかけた後に間を取る。
- 2 聞き手に注目してもらうため、資料を提示した後に間を取る。
- 3 話題が変わる部分であるため、「ところで」の前に間を取る。
- 4 適切な音量を保って話すため、読点（、）では必ず間を取る。

二 【スピーチ原稿】の点線で囲まれた部分は、検温する際の三つのポイントを説明したものです。【会話】の内容と提示する【図】を参考にして、検温する際のポイントの1と2を答えなさい。

三 妹は、【スピーチ原稿】を実際に声に出して読み、——線部Cを聞き手に分かりやすいように言いかえることにしました。言いかえる箇所とその理由として適切でないものを、次の1から4までの中から一つ選びなさい。

- 1 音を聞いただけでは意味が分かりにくいので、「起床時」「就寝前」を「起きた時」「寝る前」に言いかえる。
- 2 言い切りの形にした方が言葉の調子がとれるので、「必要があります。」を「必要がある。」に言いかえる。
- 3 「・」は声に出して読むことができないので、「入浴・運動後」を「入浴後、運動後」などと言いかえる。
- 4 訓読みの方が意味が伝わりやすいので、「外出後等」の「等」を「とう」ではなく、「など」と言いかえる。

次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

谷川の岸の小さな学校に、風変わりな転校生・高田三郎（又三郎）がやって来た。ある日、三郎と嘉助と一郎たちは、一郎の家の馬で競争することになった。その時、二頭の馬が突然逃げ出したため、嘉助と三郎が追いかけた。嘉助は、三郎ともはぐれてしまい、一郎たちの元に帰ることもできず、足がしびれ意識がもうろうとなり、深い草の中に倒れてしまう。

嘉助はやつと起き上がって、せかせか息しながら馬の行ったほうに歩き出しました。草の中には、今、馬と三郎が通った跡らしく、かすかな道のようなものがありました。嘉助は笑いました。そして、（ふん、なあに、馬もどこかでこわくなつてのっこり立ってるさ）と思いました。そこで嘉助は、一生懸命それをつけて行きました。

A その道のようなものは、まだ百歩も行かないうちに、おとこえしや、すてきに背の高いあざみの中で、二つにも三つにも分かれてしまつて、どれがどれやらいつこうわからなくなつてしまいました。

嘉助は「おうい。」と叫びました。

「おう。」とどこかで三郎が叫んでいるようです。思い切つて、そのまん中を進みました。

けれどもそれも、時々切れたり、馬の歩かないような急な所を横ざまに過ぎたりするのです。

空はたいへん暗く重くなり、まわりがぼうつとかすんで来ました。冷たい風が、草を渡りはじめ、もう雲や霧が切れ切れになつて目の前をぐんぐん通り過ぎて行きました。

（ああ、こいつは悪くなつて来た。みんな悪いことはこれから集つて

やつて来るのだ。）と嘉助は思いました。全くそのとおり、にわかには通つた跡は草の中でなくなつてしまいました。

（ああ、悪くなつた、悪くなつた。）嘉助は胸をどきどきさせました。草がからだを曲げて、パチパチ言つたり、さらさら鳴つたりしました。霧がことに濃くなつて、着物はすっかりしめつてしまいました。

嘉助は咽喉いっばい叫びました。

「一郎、一郎、こっちさ来う。」ところがなんの返事も聞こえません。黒板から降る白墨の粉のような、暗い冷たい霧の粒が、そこら一面踊りまわり、あたりがにわかにはシインとして、陰気に陰気になりました。草からは、もうしづくの音がポタリポタリと聞こえて来ます。

嘉助は、もう早く一郎たちの所へ戻ろうとして急いで引つ返しました。けれどもどうも、それは前に来た所とは違つていたようでした。第一、あざみがあんまりたくさんありましたし、それに草の底にさつきなかつた岩かけが、度々ころがつていました。そしてどうとう聞いたこともない大きな谷が、いきなり目の前に現れました。すすきがざわざわわつと鳴り、向こうのほうは底知れずの谷のように、霧の中に消えているではありませんか。

風が来ると、すすきの穂は細いたくさんの手をいっばいのばして、忙しく振つて、

「あ、西さん、あ、東さん、あ、西さん、あ、南さん、あ、西さん。」なんて言っているようでした。

嘉助はあんまり見つともなかつたので、目をつむつて横を向きました。そして急いで引つ返しました。小さな黒い道がいきなり草の中に出て来ました。それはたくさんの馬のひづめの跡でできあがつていたのです。嘉助は夢中で短い笑い声をあげて、その道をぐんぐん歩きました。

けれども、たよりのないことは、みちのはばが五寸ぐらいいになったり、また三尺ぐらいいに変わったたり、おまけになんだかぐるつと廻まわっているように思われました。そして、**B**、大きくなってっぺんの焼けた栗くりの木の  
前まで来た時、ぼんやりいくにも別れてしまいました。

そこはたぶんは、野馬のの集まり場所であつたでしょう。霧の中に円まるい  
広場のように見えたのです。

嘉助はがっかりして、黒い道をまた戻りはじめました。知らない草穂  
が静かにゆらぎ、少し強い風が来る時は、どこかで何かが合図をしてで  
もいるように、一面の草が、それ来たつとみなからだを伏せて避けまし  
た。

空が光ってキーンキーンと鳴っています。それから**C** 目の前の霧  
の中に、家の形の大きな黒いものがあらわれました。嘉助はしばらく自  
分の目を疑って立ちどまっていたが、**D** どうしても家らしくかっ  
たので、こわごわもつと近寄って見ますと、それは冷たい大きな黒い岩  
でした。

空がくるくるくると白く揺らぎ、草がバラツと一度にしづくを払い  
ました。

(間違つて原を向こう側へおれば、又三郎もおれも、もう死ぬばか  
りだ。)と嘉助は半分思つうように半分つぶやくようにしました。それか  
ら叫びました。

「一郎、一郎、いるが。一郎。」

また明るくなりました。草がみないっせいによるこびの息をします。  
「伊佐戸の町の、電気工夫こうふうの童わらわあ、山男やまおに手足てあしいしこぼらえてたふうだ。」  
といつかだれかの話した言葉が、はつきり耳に聞こえて来ます。

そして、黒い道がにわかに消えてしまいました。あたりがほんのしば

らくしいんとなりました。それからヒジヨウに強い風が吹いて来まし  
た。

空が旗はたのようにはばたばた光ってひるがえひるがえ、火花がパチパチパチツと  
モえました。嘉助はどうとう草の中に倒れてねむつてしまいました。

.....

そんなことはみんなどこかの遠いできごとのようでした。  
もう又三郎がすぐ目の前に足を投げだしてだまつて空を見あげてい  
るのです。いつかいつものねずみいろの上着の上にガラスのマントを着  
ているのです。それから光るガラスの靴をはいているのです。

又三郎の肩には栗の木影が青く落ちています。又三郎の影は、また  
青く草に落ちています。そして風がどんどん吹いているのです。  
又三郎は笑いもしなければ物も言いません。ただ小さなくちびるを強そ  
うにきつと結んだまま黙つてそらを見えています。いきなり又三郎はひら  
つとそらへ飛びあがりました。ガラスのマントがキラキラ光りました。  
ふと嘉助は目をひらきました。灰いろの霧が速く速く飛んでいます。

そして馬がすぐ目の前にのっそりと立っていたのです。その眼は嘉助  
を恐れて横のほうを向いていました。

嘉助ははね上がつて馬の名札を押さえました。そのうしろから三郎が  
まるで色のなくなつたくちびるをきつと結んでこつちへ出てきました。  
嘉助はぶるぶるふるえました。

「おうい。」霧の中から一郎の兄さんの声がしました。雷もごろごろ鳴  
っています。

「おおい、嘉助。いるが。嘉助。」一郎の声もしました。嘉助はよろこ  
んでとびあがりました。

「おおい。いる、いる。一郎。おおい。」

一郎の兄さんと一郎が、とつぜん、目の前に立ちました。嘉助はにわかに泣き出しました。

(濡れたな)

「探したぞ。あぶながったぞ。すつかりぬれたな。\* どう。」一郎の兄さんはなれた手つきで馬の首を抱いて、もってきたくつわをすばやく馬のくちにはめました。

「さあ、あべさ。」

「又三郎びっくりしたべあ。」一郎が三郎に言いました。三郎はだまつて、やつぱりきつと口を結んでうなずきました。

みんなは一郎の兄さんについて、ゆるい傾斜を二つほどのぼり降りしました。それから、黒い大きな道について、しばらく歩きました。

稲光りが二度ばかり、かすかに白くひらめきました。草を焼くにおいがして、霧の中を煙がぼうつと流れています。

一郎の兄さんが叫びました。

「おじいさん。いだ、いだ。みんないだ。」

おじいさんは霧の中に立っていて、

(寒かろう)

「ああ心配した、心配した。ああえがった。おお嘉助。寒がべあ、さあ入れ。」と言いました。嘉助は一郎と同じようにやはりこのおじいさんの孫なようでした。

(宮澤賢治「風の又三郎」による)

※ おとこえし：白い小花をたくさんつける多年草

※ あざみ：紫色の花をつける多年草

※ 白墨：チョーク

※ 寸：長さの単位。一寸は約三センチメートル

※ 尺：長さの単位。一尺は約三〇センチメートル

※ 野馬：野生の馬

※ 電気工夫：電気工事などの現場で働く労働者

※ くつわ：馬の口に含ませ、手綱をつける道具

一 空欄 **A** に入る言葉として最も適切なものを、次の1から4までの中から一つ選びなさい。

- 1 ところが
- 2 だから
- 3 あるいは
- 4 ところで

二 空欄 **B**・**C**・**D** にあてはまる言葉の組み合わせとして最も適切なものを、次の1から4までの中から一つ選びなさい。

- |   |   |      |   |      |   |      |
|---|---|------|---|------|---|------|
| 1 | B | すぐ   | C | はつきり | D | とうとう |
| 2 | B | やはり  | C | とうとう | D | すぐ   |
| 3 | B | とうとう | C | すぐ   | D | やはり  |
| 4 | B | はつきり | C | やはり  | D | すぐ   |

三 — 線部② 「現れました」を文末とする一文の主語を、次の1から4までの中から一つ選びなさい。

- 1 大きな
- 2 谷が
- 3 いきなり
- 4 目の前に

四 文章中の波線部Ⅰ～Ⅲのカタカナは漢字に、漢字はひらがなに直し、楷書でていねいに書きなさい。

Ⅰ ヒジヨウ

Ⅱ 旗

Ⅲ モエ

五 江戸町中学校の二年一組では、国語の授業において、文章の内容について話し合いを行っています。次の【話し合いの様子】を読んで、あとの問いに答えなさい。

【話し合いの様子】

Aさん ー：ー：ー：ー：までは、嘉助の置かれた状況や、次第に心の余裕を失っていく様子が描かれているね。

Bさん 「①嘉助は笑いました」と、「③短い笑い声」では、同じ「笑い」でも少し意味合いが違うね。

Cさん どんな心情の変化があるのだろうか。「①嘉助は笑いました」からは、まだ心の余裕が感じられるけど、「③短い笑い声」からは……。

Bさん そうか！「③短い笑い声」は、 嘉助の気持ちを表しているわけだね。

Cさん だからこそ、栗の木の前にとどりついた時、嘉助はがっかりして、黒道をまた戻りはじめたんだね。

Aさん 大きな谷から栗の木までは、 を頼りに必死で歩いてきたわけだから、頼るべきものを全て失った気分だろうね。

Bさん 「④嘉助はどうとう草の中に倒れてねむってしまいました。」とあるけど、きつと、体力・気力とも限界だったのだろうね。後半はどうなるのか、読み進めていこう。

(1) 【話し合いの様子】の  ア に入る最も適切な言葉を、次の1から4までの中から一つ選びなさい。

- 1 道幅や歩く方向が変化することを楽しんでいる
- 2 迷った末にようやく足跡を見つけて喜んでいる
- 3 何度も期待を裏切られて投げやりになっている
- 4 東西南北の方角がわかって得意気になっている

(2) 【話し合いの様子】の  イ に入る言葉を、文章中から七字で抜き出さなさい。

(3) 線部④「嘉助はどうとう草の中に倒れてねむってしまいました。」以降を読んでいく中で、Aさんは、「一郎の兄

さんと一郎が目の前に立ったとき、嘉助がにわかに泣き出したのはなぜか。」という疑問をもち、嘉助が泣き出した理由を次のようにまとめました。

□

に入る言葉を補い、解答欄に合うように書きなさい。

□  
だった嘉助は、

□  
から。

六 この文章の特徴として最も適切なものを、次の1から4までの中から一つ選びなさい。

- 1 登場人物の気持ちの変化を共感的に表現するために、主人公の視点で語っている。
- 2 登場人物の内面を情景の移り変わりで表現するために、会話を少なくしている。
- 3 登場人物の心情を細かく描くために、倒置法や体言止めなどの技法を用いている。
- 4 登場人物をいきいきと描くために、方言交じりの会話文や比喩表現を用いている。

江戸町中学校の二年二組では、国語の授業において、一年生に向けて学校生活についての壁新聞を作っています。伊藤さんのグループは「テスト週間の過ごし方」をテーマにしています。次は、伊藤さんのグループが作成した【壁新聞】です。これを読んで、あとの問いに答えなさい

【壁新聞】

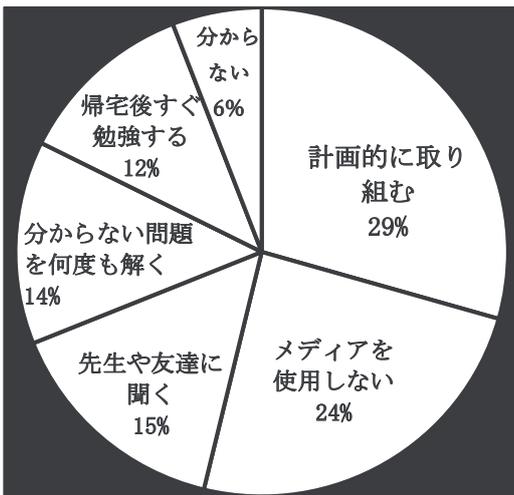
江戸町中学校二年生に聞く！

テスト週間の過ごし方

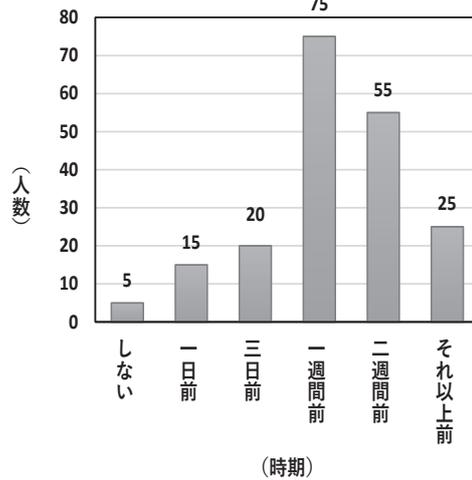
【テストまで、あと二週間！】

一年生のみなさん、こんにちは！  
初めてのテストまで、いよいよあと二週間となりました。テストに向けての勉強は進んでいますか。①入学して一ヶ月が過ぎて、小学校まではなかった部活動が本格的に始まり、中学校生活で初めてとなるテストに向けた勉強にも取り組んでいかなければいけません。一年生のみなさんは、テストに向けてどのような過ごし方がいけいいのか、不安に感じているのではないかと思います。  
そこで今回は、「テスト週間の過ごし方」について、二年生のアンケートをもとにまとめました。ぜひ、これからのテスト勉強に役立ててみてください。

テスト週間の過ごし方のポイント



テスト勉強を始める時期と人数



【考察】

テスト勉強を始める時期は、「一週間前」と答えた人が最も多い結果となりました。しかし、二週間前やそれ以上前から取り組む人も41%に上ります。中学校のテストは範囲が広いいため、地道な努力を重ねている人が多②いです。

また、テスト週間の過ごし方のポイントとして、24%の人が「メディアを使用しない」と答えました。やはり、テスト週間中は、勉強に集中するためにメディアに触れないよう、心がける人が多いでしょう。余裕をもって計画的に取り組む、誘惑に負けず、着実に行動に移す努力が大切です。

【最後に】

私たち二年生も、昨年受けた初めてのテストはとても緊張しました。終わったあとに後悔した人もいました。一年生のみなさんは上のグラフや考察を参考に、テスト週間を過ごしましょう。

テスト勉強は、



と！

一 伊藤さんは、【テストまで、あと二週間！】の——線部①が分かりにくいので、内容を考えて二つの文に分けることにしました。「そのうえ、」という接続詞を用いて二つの文に分けたときの、書き変えた一文目の終わりの五字（句読点は含まない）を書きなさい。

二 伊藤さんは、【考察】の文章を読み返して、——線部②「多いです。」の部分で、次のように変更しました。その意図として最も適切なものを、あとの1から4までの中から一つ選びなさい。

（変更前）「多いです。」↓（変更後）「多いようです。」

- 1 アンケート結果を基にした、自分の推測であることを表現するため。
- 2 アンケート結果を基にして、何かに例えていることを表現するため。
- 3 アンケート結果を基にして、具体的な例であることを表現するため。
- 4 アンケート結果を基にした、他人の考えであることを表現するため。



これで、国語の問題は終わりです。

